

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Analysis of risk factors for post-tonsillectomy hemorrhage in adults

(成人における口蓋扁桃摘出術後出血のリスク因子に関する検討)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (指導教授 都築 建三)

氏 名 伏見 勝哉

[研究目的]口蓋扁桃摘出術は、耳鼻咽喉科において最も頻繁に行われる手術のひとつである。慢性扁桃炎または再発性扁桃炎 (1年に4回以上)、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、IgA腎症などの扁桃病巣感染症、扁桃周囲膿瘍、および悪性が疑われる扁桃腫瘍が手術の適応となる。口蓋扁桃摘出術において、最も危惧すべき術後合併症は出血 (PTH: Post tonsillectomy hemorrhage) である。PTHは完全に予防することが困難な合併症であり、時に血液誤嚥や大量出血によって致命的ともなり得るため、依然として口蓋扁桃摘出術における大きな脅威と考えられている。本研究の目的は、成人患者におけるPTHのリスク因子を同定することである。

[研究方法]2009年1月から2019年12月までの過去11年間に、明和病院にて口蓋扁桃摘出術を施行された19歳以上の成人患者275例を対象とし、PTHのリスク因子について後方視的検討を行った。性別は男性140例、女性135例、平均年齢は31.4歳 (19~76歳)、原疾患は慢性扁桃炎207例、IgA腎症68例であった。年齢、性別、原疾患、過体重の有無 ($BMI \geq 25$)、喫煙の有無、扁桃周囲炎もしくは扁桃周囲膿瘍の既往、術者の練度、バイポーラによる焼灼止血の有無を検討項目として、単変量解析 (Studentのt検定、Fisherの正確確率検定) ならびに多変量解析 (ロジスティック回帰分析) を行い、 $p < 0.05$ を有意水準として評価を行った。また、IgA腎症患者の口蓋扁桃における炎症所見を病理学的に評価し、PTHとの関連性について検討を行った。

[研究結果]全症例におけるPTHの発生率は14.2% (39/275例) であった。PTHは、慢性扁桃炎 (11.6%、24/207例) よりもIgA腎症 (22.1%、15/68例) において有意に発生頻度が高かった (オッズ比2.55、 $p < 0.05$)。PTHを来したIgA腎症例の扁桃には組織学的に重度の炎症所見が認められ、数例において創部の強い浮腫状腫脹、紫斑、腹痛、下血などIgA血管炎 (旧名 Henoch-Schönlein 紫斑病) 様の症状が術後併発した。バイポーラによる焼灼止血を行った群 (17.3%、31/179例) は、焼灼止血を行わなかった群 (8.8%、8/96例) よりも有意にPTHの頻度が高かった ($p < 0.05$)。

[結論と考察]IgA腎症とバイポーラによる焼灼止血は、PTHのリスク因子であることが示された。IgA腎症はこれまでにPTHのリスク因子としての報告がなく、扁桃組織の炎症や手術による全身性血管炎の惹起がPTHに影響を及ぼすことが示唆された。バイポーラによる焼灼止血は創傷治癒の遷延化を来すことが報告されており、PTHの誘因と考えられた。IgA腎症に対して口蓋扁桃摘出術を行う際には、術後に全身性血管炎を呈する可能性について考慮するべきであることが、本研究によって示された。